



地域支援部だより



宮城県立利府支援学校 地域支援部 No. 3 2024. 12. 23発行

10月に開催されました「第2回梨丘ネットワーク研修会」についてお知らせします。
今回は、仙台大学の中里和裕氏を講師にお迎えし、「支援が必要な子どもをみんなで支える、たて・よこのネットワークづくり～共生社会の実現を目指して～」というテーマで講話をいただきました。

＜梨丘ネットワーク研修会とは＞ 子どもたちに寄り添う支援ができるように、手を携える関係づくりを目指して、地域の学校や福祉の関係者が研修や情報交換を行っている会です。



仙台大学
中里 和裕 氏

＜ 参加者及び人数 ＞
・学区内小・中・高等学校：16名
・教育委員会・外部機関：8名
・本校及び分校所属教員：45名
※当日不参加の教員は後日、講話を視聴

講話内容 ※概要をご紹介します

◆集団の捉え方

「集団」は「子ども＝個人」の集合体。「個」が生きる「集団づくり」が重要。
一人ひとりが“特別な存在”→個々の特性、ニーズに合った支援、指導が必要

◆子どもを理解しようとするときに

- ・外因（身体因）、内因（発病しやすさ）、心因、家族関係、友人関係、世代間（親⇄子）
…「点」「面」「線」の視点
- ・さまざまな発達理論、精神障害、心理検査の理論、アセスメント、カウンセリングの技法
→周辺症状、二次障害にも注意する



◆支援が必要な子どもへの対応

- ・子ども本人の支援・・・信頼関係の形成→自己理解
→ゴールセッティング、達成までの計画づくり
- ・保護者の支援
- ・学級の子どもたち（ピア・サポート）による支援
- ・学級＋学年＋学校＋外部機関チームでの支援

支援の基本はセルフコントロールの強化と環境調整



◆共生社会の実現を目指して

- ・本人への働き掛けと同じくらい、周囲の子どもたちへの働き掛けが大切
- ・地域とともにある学校を核とした地域・家庭の教育力の再生



☆参加者アンケート（一部抜粋）☆

- ・具体的な支援の方法や詳しい検査方法など、大変参考になりました。
- ・児童生徒の捉えについて、改めて考えさせられる機会になりました。
- ・改めて学級づくりは集団の中における個と捉えて一人一人の特性に合った支援が必要であると確認できました。アセスメントの仕方を校内で理解し手法に基づいて支援を継続しなければと感じました。

